

ATTEM
操作マニュアル
- LogViewer -

株式会社システムインフロンティア

ご注意

この取扱説明書および記述してあるソフトウェアの仕様・内容は、予告なく変更することがあります。

この取扱説明書は電子編集・組版システム（DTP）で製作しています。そのため、画面の写真の仕上がりについては、実際の写真や元の画面と画質に差異を生じる場合があります。

この取扱説明書および記述してあるソフトウェアを運用した結果の影響につきましては、直接的、間接的に関わらず、当社はいっさいの責任を負いかねますので、ご理解の上ご了承願います。

本装置およびソフトウェアを当社に無断で分解したり改造したりした場合、その結果について当社はいっさいの責任を負いかねますので、ご了承願います。

この取扱説明書および記述してあるソフトウェアの内容の一部または全部を当社に無断で使用、転載、複写することは禁止されています。

この取扱説明書および記述してあるソフトウェアの使用に際し、製品に“ソフトウェア使用許諾書”が添付されている場合は、その規定に準拠致します。

Copyright © 2015 SYSTEM IN FRONTIER INC.

本装置、ソフトウェア、および取扱説明書は、外国為替および外国貿易管理法の戦略物資等輸出規制品に該当する場合がありますので、日本国外に持ち出す際は当社までお問い合わせください。

登録商標

Windows XP、Windows Vista、Windows 7、Windows Server 2003 / 2008 は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

その他、記載されている会社名、製品名等は、各社の登録商標または商標です。

目次

第 1 章 はじめに	4
1.1. 前提条件	4
1.2. 用語説明	4
1.2.1. アラームとは.....	4
1.2.2. AddUp とは	4
1.2.3. 報告用ログフォルダとは	5
第 2 章 操作方法	6
2.1. 起動する	6
2.2. ログフォルダの内容を表示する	7
2.3. パラメータのグラフをグループ毎に一覧する	8
2.4. 詳細グラフを閲覧する	10
2.4.1. 選択時刻を変更する.....	12
2.4.2. 拡大する	13
2.4.3. 表示するパラメータを変更する	14
2.5. グラフの読み込み期間を変更する	15
2.6. グラフ表示の細かさを変更する	16
2.7. グラフ読み込みのリミット設定を変更する	17
2.8. アラームログを表示する.....	18
2.9. AddUP データを表示する	20
2.10. 報告用ログフォルダを作成する	21
2.11. 終了する	22

第1章 はじめに

1.1. 前提条件

本操作マニュアルの内容は、InstallationManual での初回設定が完了していることが前提条件です。

1.2. 用語説明

1.2.1. アラームとは

アラームは、事前に設定した条件が満たされた時にユーザーに知らせる機能です。例えば「A1 の目標電圧値が 4.0kV 以上に設定されたらポップアップとメールで通知する」といったことが可能です。

アラームに関する機能は ATTEM システム内で下記の表のように分担されます。

Table 1-1 ATTEM システム内でのアラーム機能の分担

アラームに関する機能	機能を担当する ATTEM アプリケーション
アラームを設定する	Configurator
定義に従いアラームを発生させる	Monitor
発生中のアラームをユーザーに通知する	Monitor
発生中のアラーム内容を表示する	Monitor
アラームの履歴を表示する	LogViewer

1.2.2. AddUp とは

AddUp は、事前に設定した条件が満たされた時にその通算時間を数える機能です。例えば、「V1 が開いている通算時間をカウントアップする」といったことが可能です。

AddUp に関する機能は ATTEM システム内で下記の表のように分担されます。

Table 1-2 ATTEM システム内での AddUp 機能の分担

AddUp に関する機能	機能を担当する ATTEM アプリケーション
AddUp を設定する	Configurator
設定に従い通算時間をカウントアップする	Monitor
通算時間を表示する	Monitor, LogViewer
通算時間をリセットする	Monitor

1.2.3. 報告用ログフォルダとは

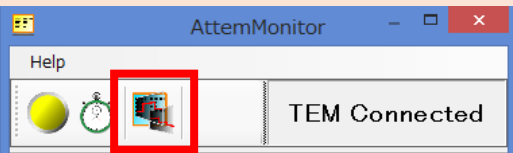
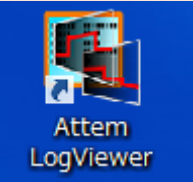
ATTEM LogViewer には、表示しているログを出力する機能があり、別の ATTEM LogViewer を用いて内容を表示することが出来ます。出力する際、ログの内容を含んだフォルダが作成され、このフォルダのことを本書では報告用ログフォルダと呼びます。例えば、報告用ログフォルダを圧縮してメールに添付し送信すれば、遠隔地のサービス員が ATTEM LogViewer を用いてログを解析することが可能となります。

第2章 操作方法

2.1. 起動する

起動方法は下記の表の3通りあります。

Table 2-1 起動方法

起動方法	説明
 <p>Figure 2-1 メイン画面上の LogViewer ボタン</p> <p>ATTEM Monitor メイン画面上の LogViewer ボタンをクリックする (ATTEM Monitor 操作マニュアル参照)</p>	<p>ATTEM Monitor のログ保管場所に設定されているフォルダの内容を表示した状態で ATTEM LogViewer が起動します。</p> <p>同一 PC の ATTEM Monitor が記録中のログフォルダの内容を表示することが目的の場合、この方法で起動してください。</p>
 <p>Figure 2-2 デスクトップ上の ATTEM LogViewer ショートカット</p> <p>ショートカットをダブルクリックする</p>	<p>空の(どのフォルダの内容も表示しない)状態で ATTEM LogViewer が起動します。</p> <p>別 PC の ATTEM Monitor が記録中のログフォルダ(例えば共有フォルダ上に存在するなど)の内容を表示することが目的の場合、この方法で起動してください。</p> <p>続いて、”2.2 ログフォルダの内容を表示する”を行ってください。</p>
 <p>Figure 2-3 ログフォルダをショートカットにドラッグ&ドロップする様子</p> <p>ログフォルダをデスクトップ上のショートカットにドラッグ&ドロップする</p>	<p>ドラッグ&ドロップしたログフォルダの内容を表示した状態で ATTEM LogViewer が起動します。</p> <p>後述の”報告用ログフォルダ”の内容を表示することが目的の場合、この方法で起動してください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>注意</p><p>ATTEM Monitor のログ保管場所に設定されているフォルダを絶対にドラッグ&ドロップしないで下さい。ドロップ場所を誤るとフォルダの移動が実行され、ログが破損する可能性があります。</p></div>

起動すると、メイン画面が表示されます。

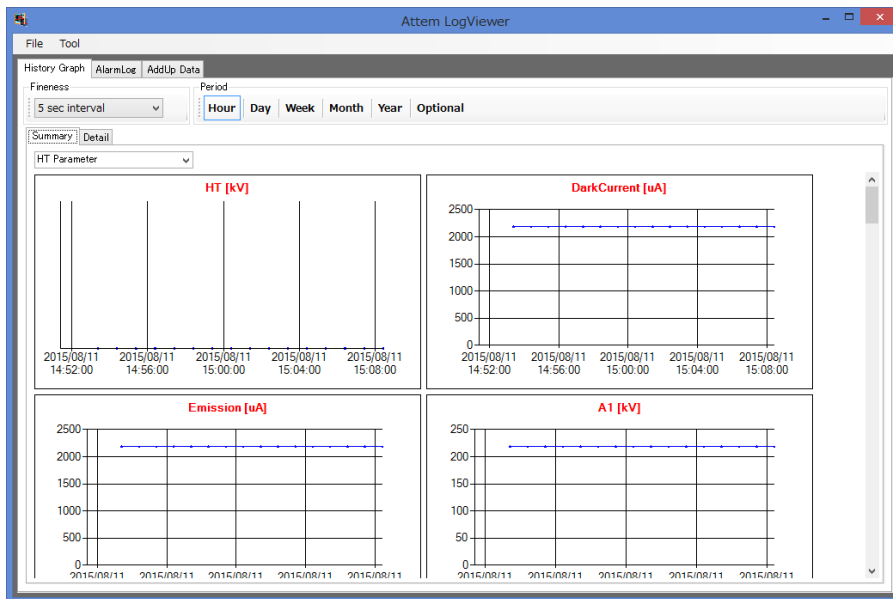


Figure 2-4 メイン画面

2.2. ログフォルダの内容を表示する

この操作は、“デスクトップ上のショートカットをダブルクリックする”で起動した場合のみ必要です。

メイン画面上部の“File”をクリックしてください。メニューが表示されます。

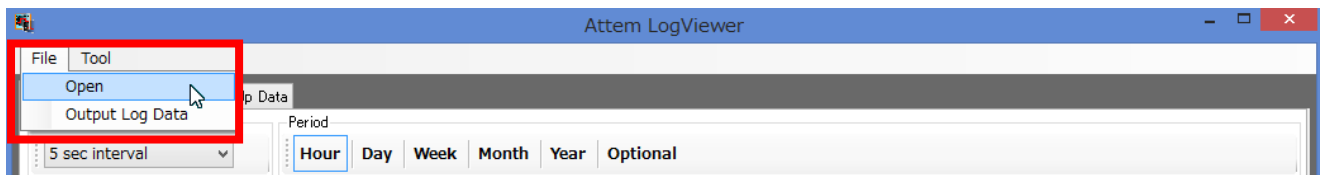


Figure 2-5 “File”メニュー

メニュー内の“Open”をクリックすると、フォルダ選択画面が表示されます。

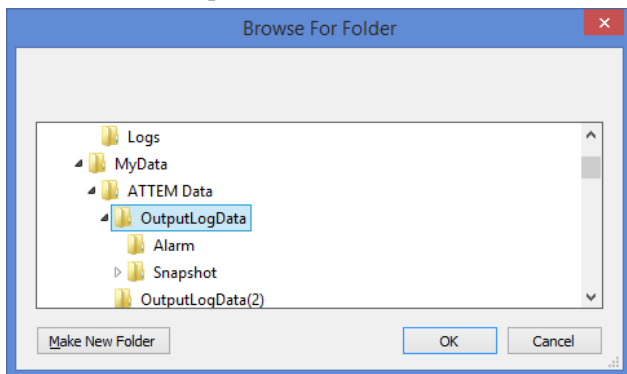


Figure 2-6 フォルダ選択画面

ログフォルダを選択して“OK”ボタンを押すと、メイン画面上にログフォルダの内容が表示されます。

2.3. パラメータのグラフをグループ毎に一覧する

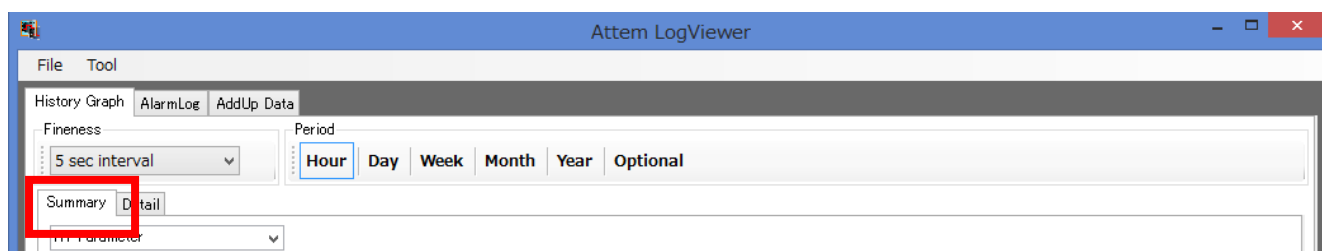


Figure 2-7 “HistoryGraph”タブ内の”Summary”タブ

メイン画面上の”History Graph”タブ内にある、”Summary”タブを選択してください。下記のようなグラフの一覧画面が表示されます。

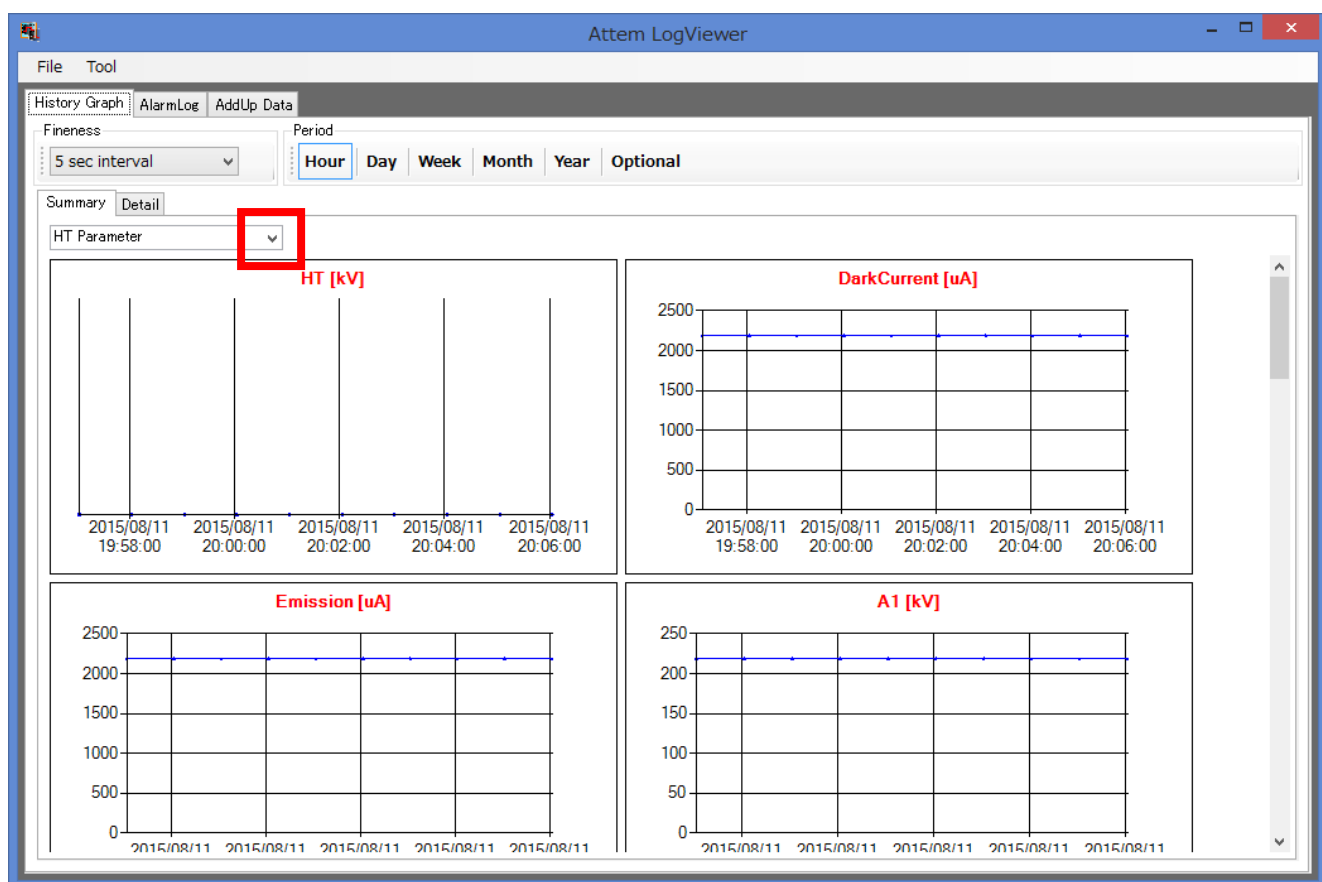


Figure 2-8 “Summary”タブ内の左上位置にあるボックスの右端

更に、Summary タブ内の左上位置にあるボックスの右端をクリックすると、下記のようにパラメータグループのリストが表示されます。

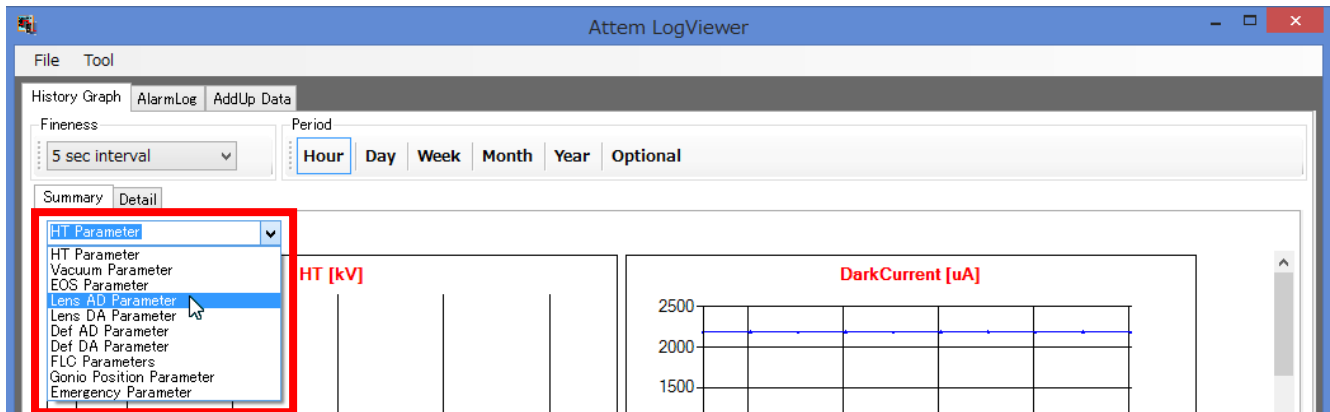


Figure 2-9 パラメータグループのリスト

任意のパラメータグループをクリックして選択してください。表示されるグラフが切り替わります。

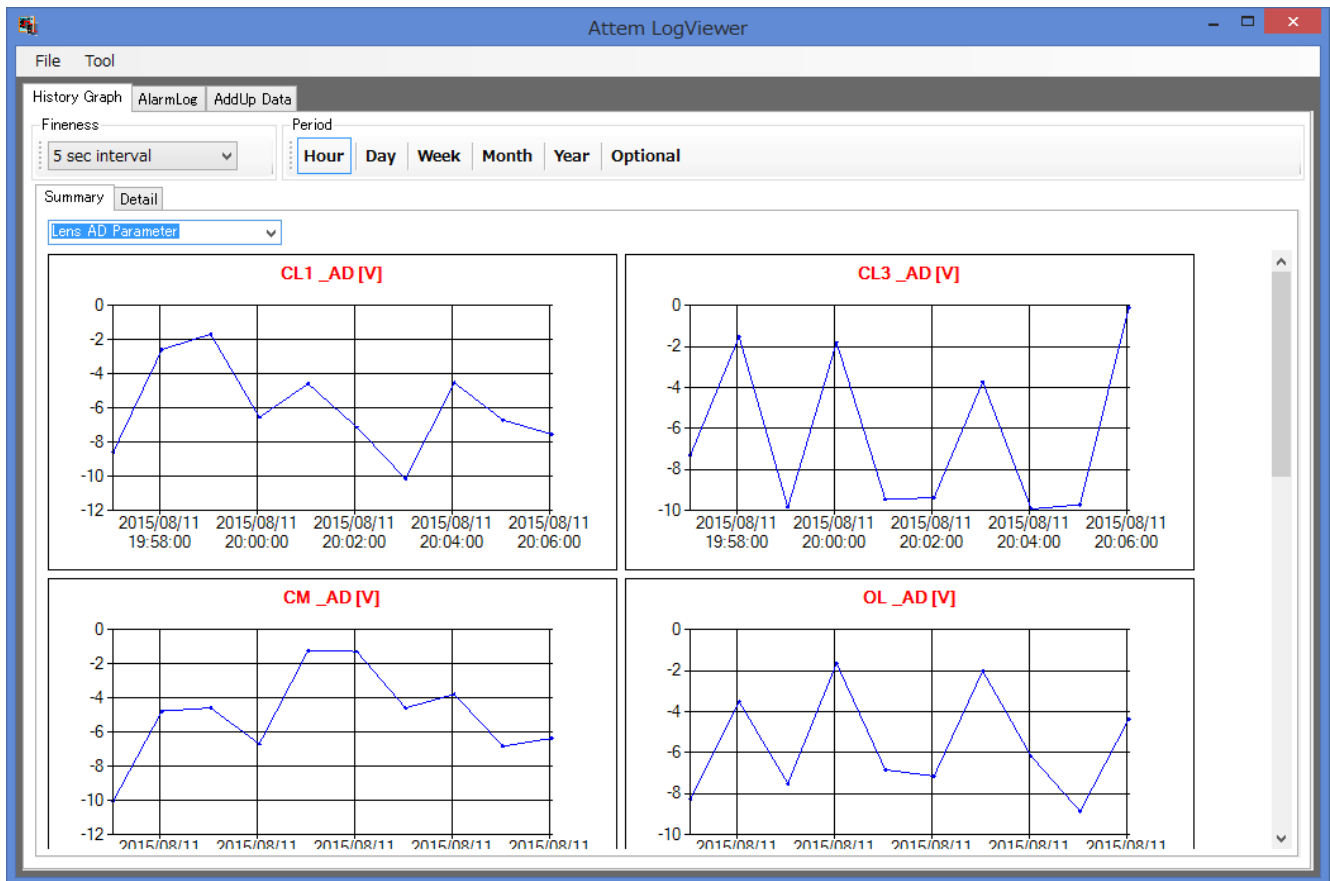


Figure 2-10 切り替わったグラフ表示

2.4. 詳細グラフを閲覧する

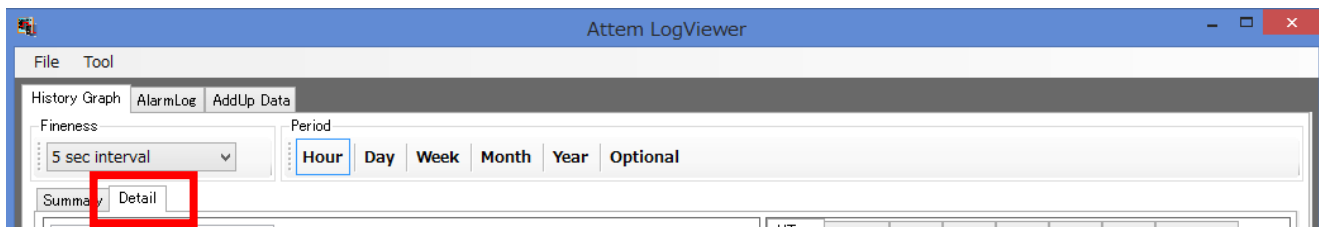


Figure 2-11 “History”タブ内の”Detail”タブ

“HistoryGraph”タブ内の”Detail”タブを選択してください。下記のような詳細グラフ画面が表示されます。

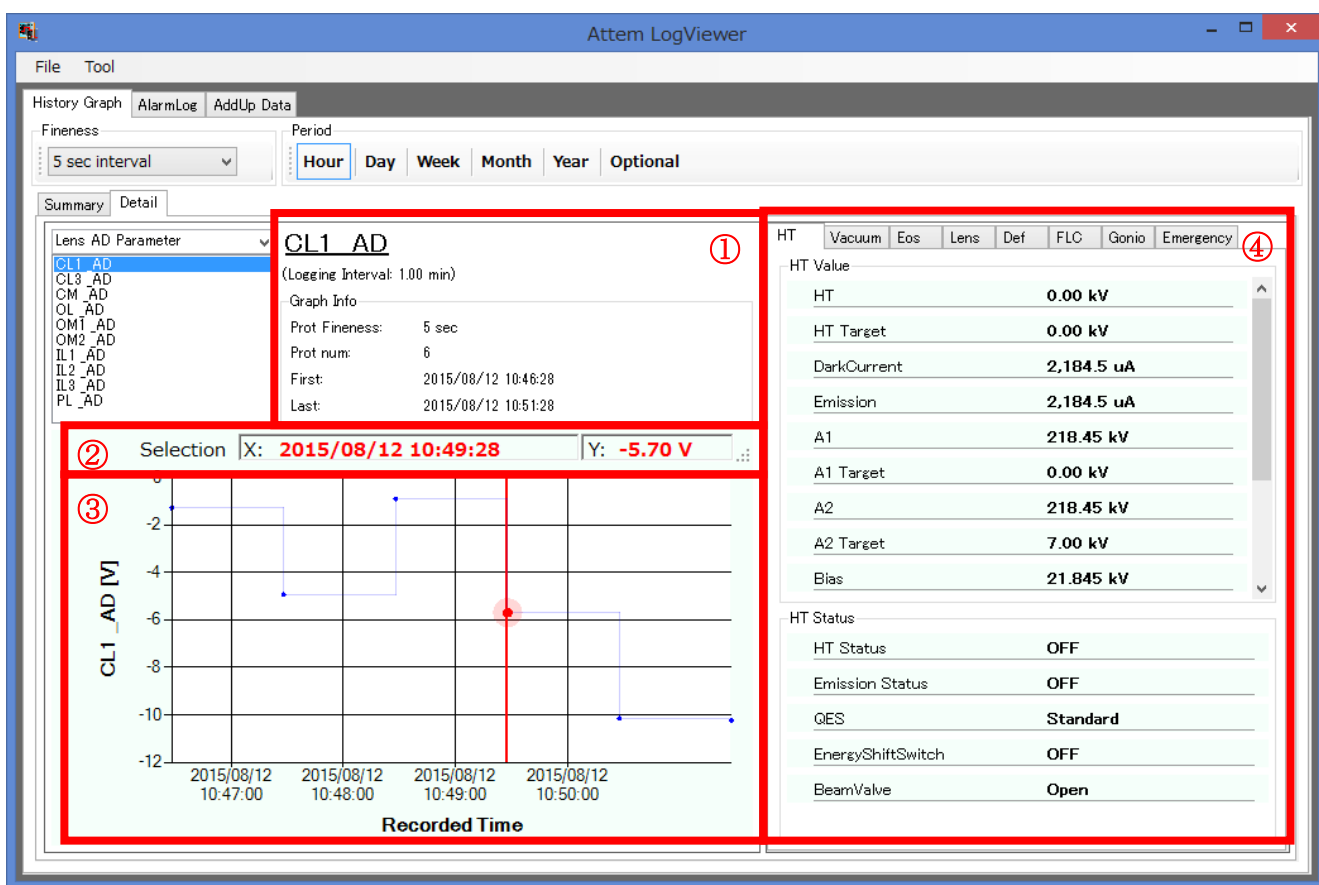
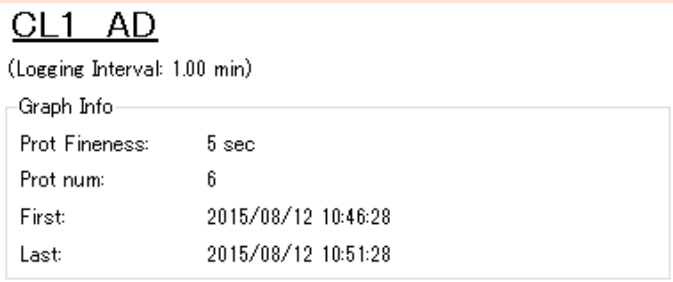
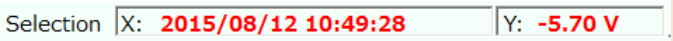
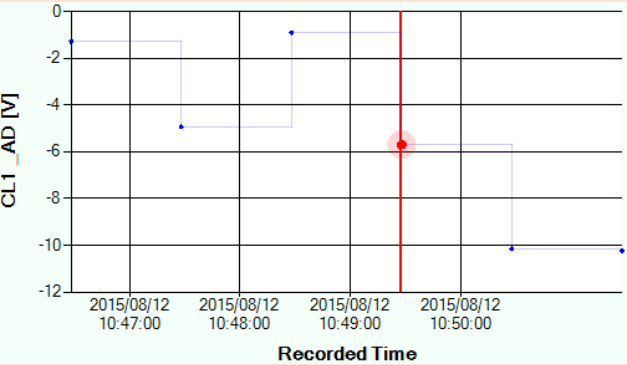
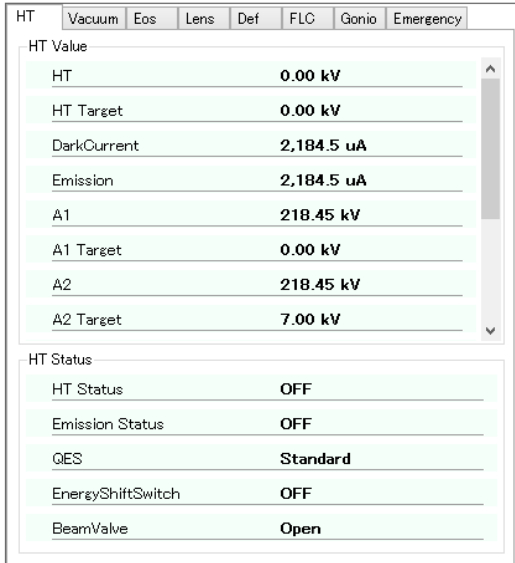


Figure 2-12 詳細グラフ画面

詳細グラフ画面に表示されている情報の説明は、下記の表の通りです。

Table 2-2 詳細グラフ画面に表示される情報

画面内各部	説明												
<p>①</p>  <p>Figure 2-13 グラフ情報表示</p>	<p>この部分の最上部の文字列は、グラフ表示中のパラメータ名です。その他は下記の通りです。</p> <table border="1" data-bbox="879 389 1477 658"> <thead> <tr> <th>各部</th> <th>説明</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Logging Interval</td> <td>グラフ表示中のパラメータがロギングされた時間間隔</td> </tr> <tr> <td>Prot Fineness</td> <td>グラフ表示の細かさ</td> </tr> <tr> <td>Prot num</td> <td>グラフ上にある点の数</td> </tr> <tr> <td>First</td> <td>グラフ上の最も古い時刻</td> </tr> <tr> <td>Last</td> <td>グラフ上の最も新しい時刻</td> </tr> </tbody> </table>	各部	説明	Logging Interval	グラフ表示中のパラメータがロギングされた時間間隔	Prot Fineness	グラフ表示の細かさ	Prot num	グラフ上にある点の数	First	グラフ上の最も古い時刻	Last	グラフ上の最も新しい時刻
各部	説明												
Logging Interval	グラフ表示中のパラメータがロギングされた時間間隔												
Prot Fineness	グラフ表示の細かさ												
Prot num	グラフ上にある点の数												
First	グラフ上の最も古い時刻												
Last	グラフ上の最も新しい時刻												
<p>②</p>  <p>Figure 2-14 選択座標表示</p>	<p>X: 選択時刻 Y: 選択時刻の値</p>												
<p>③</p>  <p>Figure 2-15 グラフ表示</p>	<p>横軸が時間軸で、縦軸は値軸です。</p> <p>グラフ上の点は、表示中のパラメータがその日時にその値だったことを表しています。</p> <p>赤線は選択時刻を強調表示しています。</p>												
<p>④</p>  <p>Figure 2-16 パラメータ値一覧表示</p>	<p>選択時刻におけるパラメータを一覧表示しています。</p> <p>グラフ上の選択時刻を変更すると、一覧表示されているパラメータ値はすべて連動してその時刻のものに更新されます。</p>												

詳細グラフ画面上で行うことの出来る操作を以下 2.4.1~2.4.3 で紹介します。

2.4.1. 選択時刻を変更する

グラフ上の任意の青点の上にカーソルを移動してください。

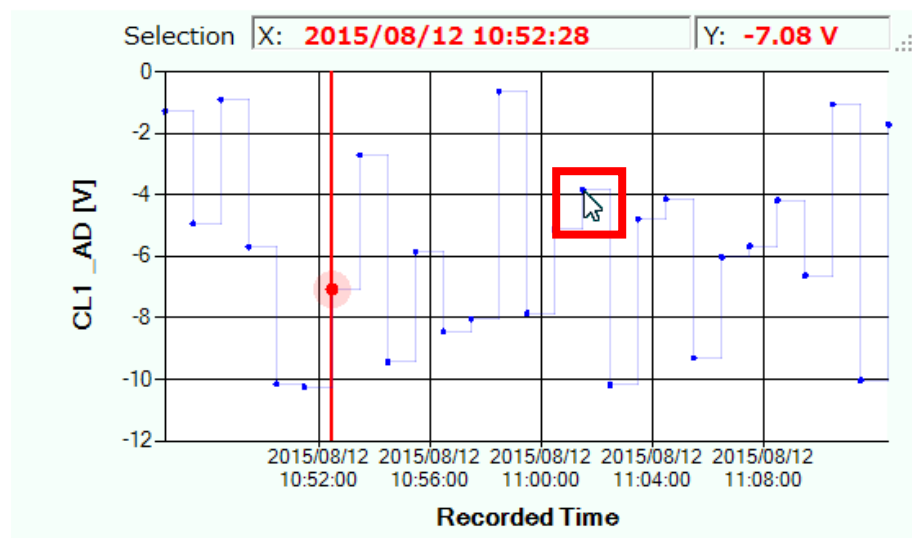


Figure 2-17 青点の上に移動したカーソル

青点をダブルクリックすると、選択時刻がその時刻に移動します。

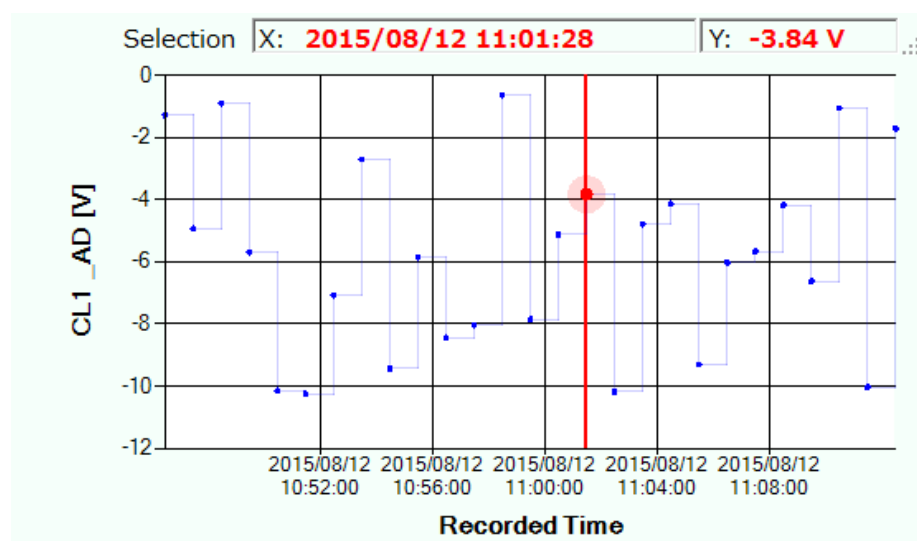


Figure 2-18 ダブルクリックにより移動した選択時刻

もしくは、キーボードの左矢印キー・右矢印キーを押すと選択時刻がより古い時刻・より新しい時刻に移動します。

2.4.2. 拡大する

グラフ上で横方向にドラッグして範囲を選択してください。

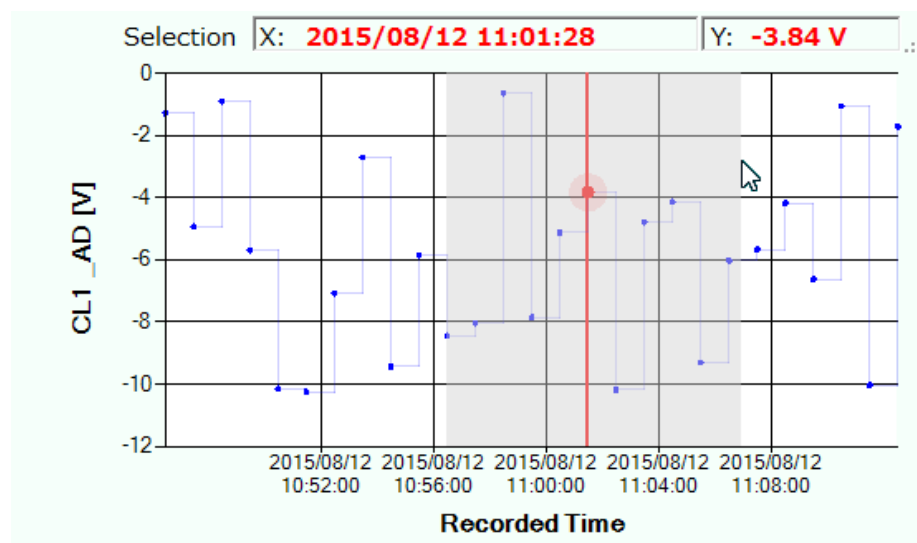


Figure 2-19 ドラッグによる範囲選択

マウスから指を離すと、グラフが選択した範囲に拡大されスクロールバーが表示されます。

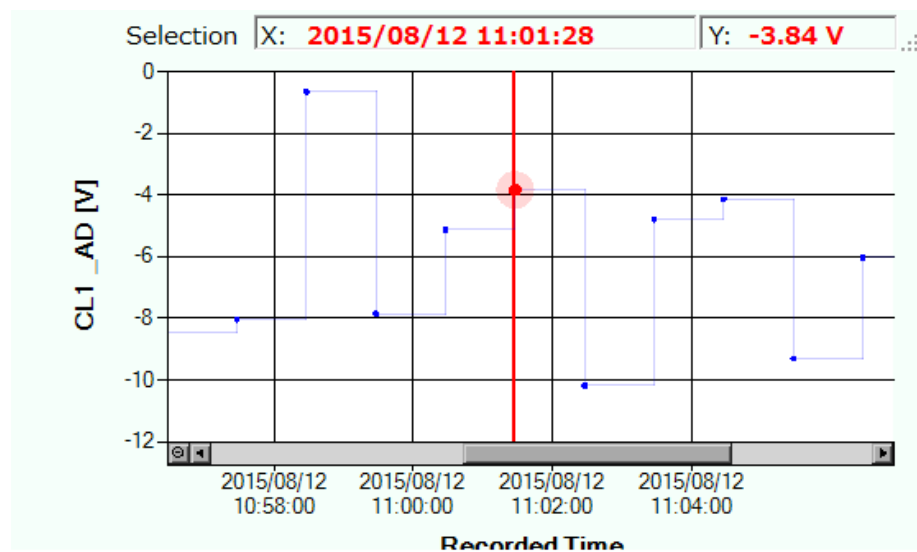



Figure 2-20 拡大後のグラフ

拡大を元に戻すには、スクロールバーの左端にある  ボタンをクリックしてください。

2.4.3. 表示するパラメータを変更する

詳細グラフ画面内の左上にパラメータ選択用の二つの欄があります。

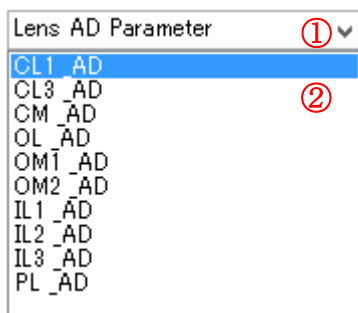



Figure 2-21 パラメータ選択用の二つの欄

二つの欄のうち、①はパラメータの種類を②はパラメータ名を表示しています。

①の  をクリックすると、パラメータ種類のリストが表示されます。

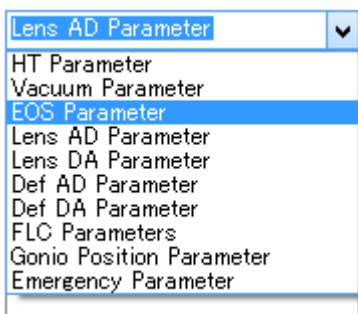


Figure 2-22 パラメータ種類のリスト

任意のパラメータの種類をクリックして選択して下さい。②のパラメータ名リストが切り替わります。

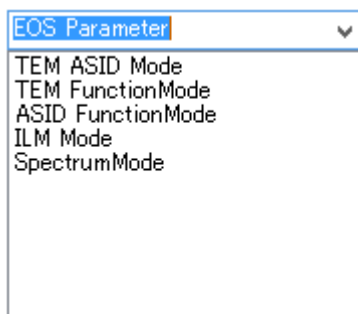


Figure 2-23 切り替わったパラメータ名リスト

②から任意のパラメータ名をクリックして下さい。グラフ表示されるパラメータが切り替わります。

2.5. グラフの読み込み期間を変更する

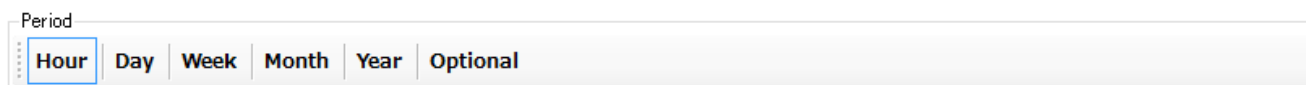
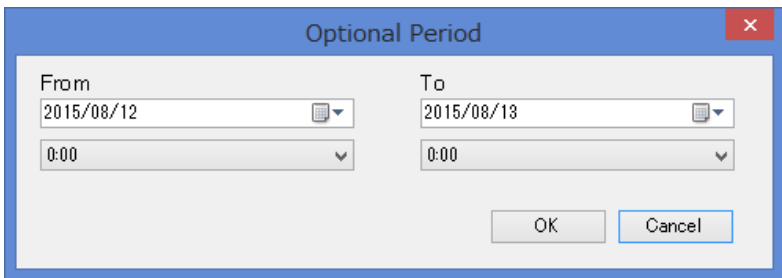


Figure 2-24 “HistoryGraph”タブ内の”Period”欄

“HistoryGraph”タブ内にある”Period”欄のボタンをクリックすることで、グラフの読み込み期間を変更することが出来ます。ボタンと期間の関係は下記の表の通りです。

Table 2-3 “Period”欄のボタンと期間の関係

ボタン	期間
Hour	現在日時から 1 時間前までのログをグラフに読み込みます。
Day	現在日時から 1 日前までのログをグラフに読み込みます。
Week	現在日時から 1 週間前までのログをグラフに読み込みます。
Month	現在日時から 1 か月前までのログをグラフに読み込みます。
Year	現在日時から 1 年前までのログをグラフに読み込みます。
Optional	<p>任意の期間のログをグラフに読み込むためのボタンです。クリックすると、下記のような期間入力画面が表示されます。</p>  <p>Figure 2-25 期間入力画面</p> <p>From には期間の初めの日時を、To には期間の終わりの日時を入力して下さい。 “OK”ボタンをクリックすると、入力した期間のログがグラフに読み込まれます。</p>

補足

読み込み期間変更後に下記のようなメッセージが表示されることがあります。

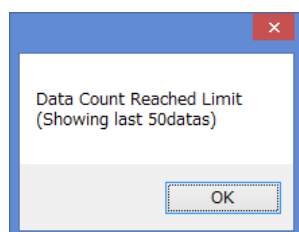


Figure 2-26 読み込みログ件数のリミット通知メッセージ

これはグラフ読み込みのリミット(後述)に到達したために、指定した期間の全体を読み込まなかったことを示しています。指定した期間の全体を読み込むには、グラフ表示の細かさ(後述)をより粗くして下さい。

2.6. グラフ表示の細かさを変更する

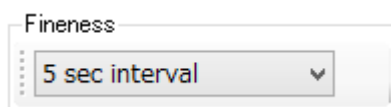


Figure 2-27 “HistoryGraph”タブ内にある”Fineness”欄

“HistoryGraph”タブ内にある”Fineness”欄をクリックすると、グラフ表示の細かさがリストで表示されます。

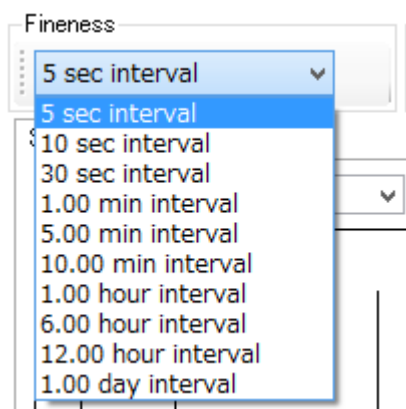


Figure 2-28 グラフの細かさのリスト

任意の細かさを選択し、クリックしてください。
グラフ表示の細かさが変化します。

補足

グラフ表示の細かさは下記の表のような特徴を持ちます。

Table 2-4 グラフ表示の細かさとその特徴

グラフ表示の細かさ	グラフ表示にかかる時間	グラフに表示される点の数
細かい(インターバルが短い)	長い	多い
粗い(インターバルが長い)	短い	少ない

2.7. グラフ読み込みのリミット設定を変更する

グラフ読み込みのリミットは、一度にグラフに読み込めるログの件数を制限する機能です。誤った操作で ATTEM LogViewer がクラッシュしないための安全装置として働きます。

※以下の設定変更を行う場合は自己責任で行ってください。

メイン画面上部にある "Tool" をクリックして下さい。メニューが表示されます。

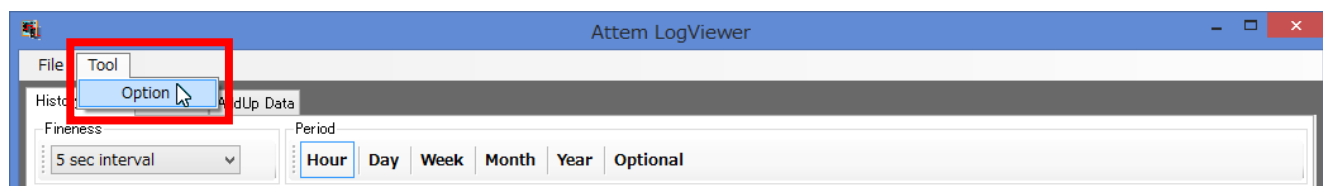


Figure 2-29 "Tool"メニュー

メニュー内の"Option"をクリックしてください。
下記の画面が表示されます。

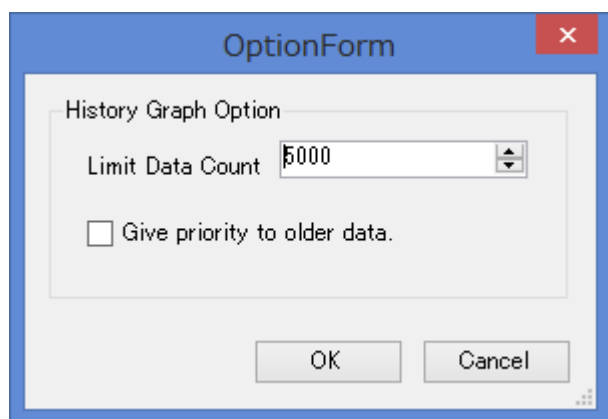


Figure 2-30 オプション画面

設定項目は下記の表の通りです。

Table 2-5 オプション画面の設定項目

設定項目	説明
Limit Data Count	一度にグラフに読み込むことが出来るログの件数の限界値を入力して下さい。
Give priority to older data	チェックを入れると、ログの過去側から読み込むようになります。つまり、件数の限界に到達したときはより古いログデータが優先して表示されます。

2.8. アラームログを表示する

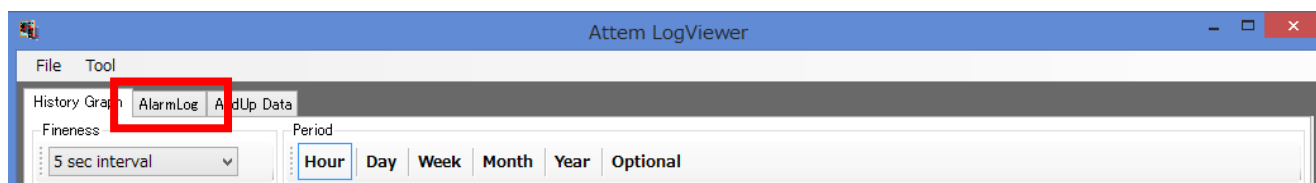


Figure 2-31 メイン画面上部の“AlarmLog”タブ

メイン画面上部の”AlarmLog”タブをクリックして下さい。下記のようにアラーム履歴画面が表示されます。

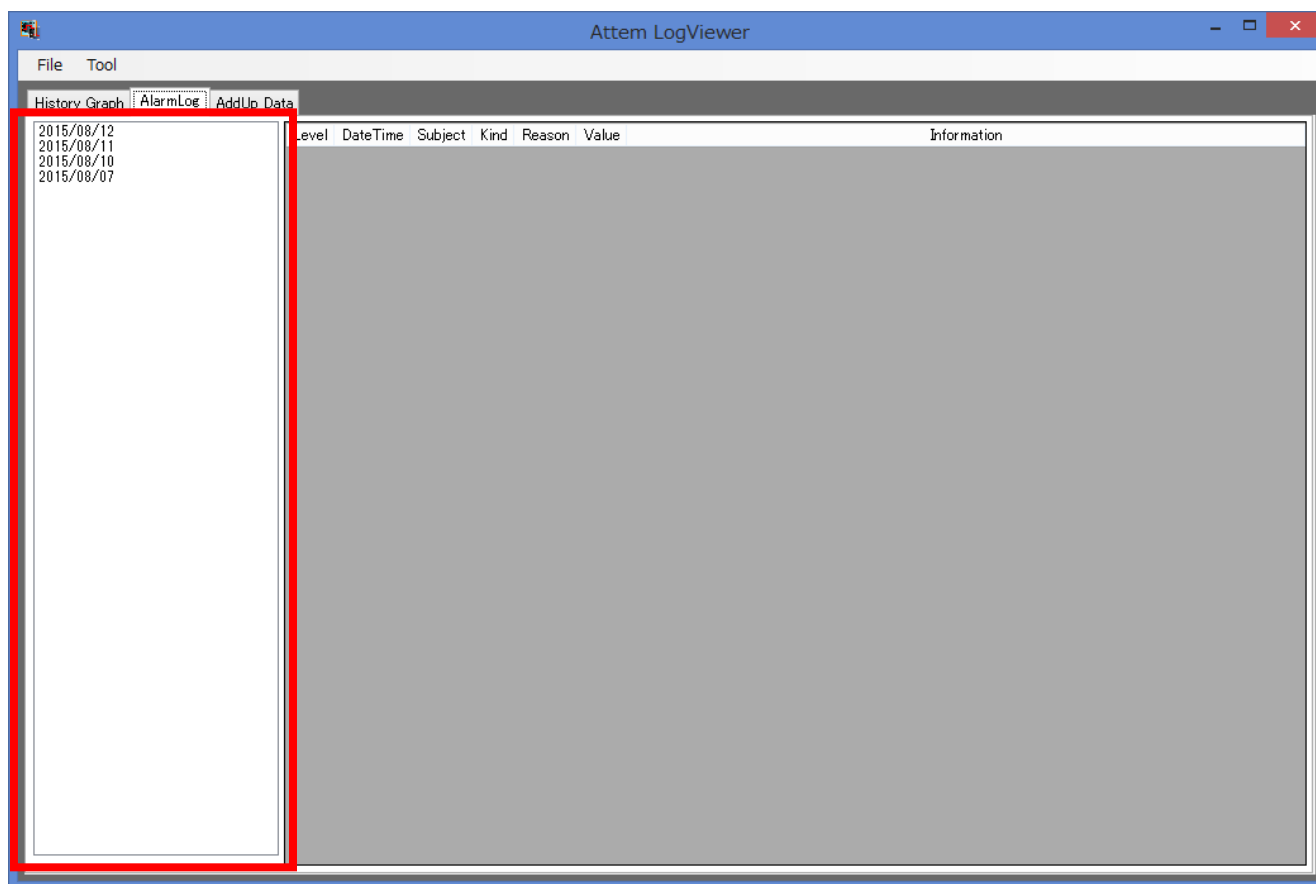


Figure 2-32 アラーム履歴のある日時の一覧

画面の左側にはアラーム履歴のある日時がリスト表示されています。リスト内から任意の日時をクリックして下さい。クリックした日時のアラーム一覧が下記のように表示されます。

Level	DateTime	Subject	Kind	Reason	Value	Information
Red	2015/08/10 10:54:13	HT	ImmediateValue	UpperThreshold	0kV	Threshold-1kV
Red	2015/08/10 11:47:08	HT	ImmediateValue	UpperThreshold	0kV	Threshold-1kV
Red	2015/08/10 11:47:35	HT	ImmediateValue	UpperThreshold	0kV	Threshold-1kV
Red	2015/08/10 11:47:48	HT	ImmediateValue	UpperThreshold	0kV	Threshold-1kV
Red	2015/08/10 12:09:38	HT	ImmediateValue	UpperThreshold	0kV	Threshold-1kV
Yellow	2015/08/10 12:10:25	HT	ImmediateValue	UpperThreshold	0kV	Threshold-1kV
Red	2015/08/10 13:35:15	HT	ImmediateValue	UpperThreshold	0kV	Threshold-1kV
Yellow	2015/08/10 14:00:40	HT	ImmediateValue	UpperThreshold	0kV	Threshold-1kV
Yellow	2015/08/10 14:59:41	HT	ImmediateValue	UpperThreshold	0kV	Threshold-1kV
Yellow	2015/08/10 15:02:04	HT	ImmediateValue	UpperThreshold	0kV	Threshold-1kV
Red	2015/08/10 15:02:04	TMP1 Failure	ImmediateStatus	OnTriggerStatus	NG	TriggerStatus:NG
Yellow	2015/08/10 15:03:15	HT	ImmediateValue	UpperThreshold	0kV	Threshold-1kV
Red	2015/08/10 15:03:15	TMP1 Failure	ImmediateStatus	OnTriggerStatus	NG	TriggerStatus:NG
Red	2015/08/10 17:27:31	TMP1 Failure	ImmediateStatus	OnTriggerStatus	NG	TriggerStatus:NG
Red	2015/08/10 17:28:10	TMP1 Failure	ImmediateStatus	OnTriggerStatus	NG	TriggerStatus:NG
Red	2015/08/10 17:28:18	TMP1 Failure	ImmediateStatus	OnTriggerStatus	NG	TriggerStatus:NG

Figure 2-33 アラームの一覧

確認できる情報は下記の通りです。

Table 2-6 アラーム履歴画面で確認できる項目

項目	説明
Level	アラームの深刻度 (赤 もしくは 黄)
DateTime	アラームの発生日時
Subject	アラームが発生したパラメータ項目名
Kind	アラームの種類 “ImmediateValue”: 瞬間の数値に対して発生したアラーム “ImmediateStatus”: 瞬間の状態に対して発生したアラーム “MeanValue”: 平均数値に対して発生したアラーム “Duration Status”: 継続的な状態に対して発生したアラーム “AddUpTotalTime”: AddUp データの通算時間に対して発生したアラーム
Reason	アラーム発生理由 “UpperThreshold”: 上限閾値を上回ったこと “LowerThreshold”: 下限閾値を下回ったこと “OnTriggerStatus”: 特定の状態になったこと
Value	アラームを発生させた数値または状態
Information	補足情報

2.9. AddUP データを表示する

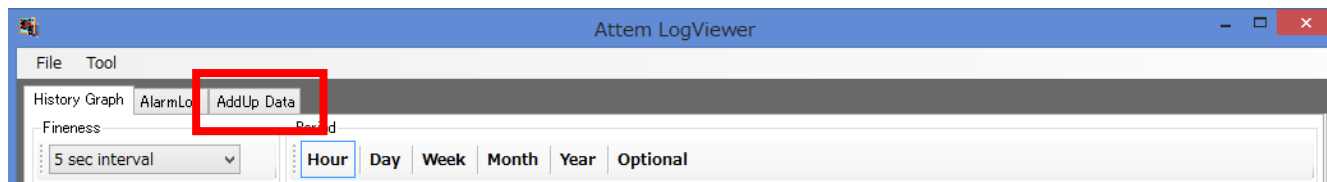


Figure 2-34 メイン画面上部の”AddUp Data”タブ

メイン画面上部の AddUp Data タブをクリックして下さい。AddUp 画面が表示されます。

Subject	Data Name	Count	Recording Period
HT	HT Under 10 kV	0days 2hours 49min 17sec	2015/08/12 10:45:33 - 2015/08/12 13:34:51
A1 Target	A1Target Over 30kV	0days 0hours 0min 0sec	2015/08/12 10:45:33 - 2015/08/12 13:34:51
BeamValve	BeamValve is Open	0day 2hours 49min 17sec	2015/08/12 10:45:33 - 2015/08/12 13:34:51
HT Status	HtStatus is OFF	0day 2hours 49min 17sec	2015/08/12 10:45:33 - 2015/08/12 13:34:51

Figure 2-35 AddUp 画面

この画面には、AddUp データの一覧が表示されます。確認できる情報は下記の表の通りです。

Table 2-7 AddUp 画面で確認できる項目

項目	説明
Subject	AddUp が設定されているパラメータ項目名が表示されます。
Data Name	AddUp につけられている名前が表示されます。
Count	AddUp された通算時間が表示されます。 AddUp 条件が満たされている間、リアルタイムにカウントアップされます。
Recording Period	前回のリセットから最後にロギングされた時刻までの期間が表示されます。

2.10. 報告用ログフォルダを作成する

ここでは、内容を表示しているログフォルダを元に報告用ログフォルダを作成する方法を説明します。報告用ログフォルダは、別の LogViewer を用いて閲覧出来ます(“2.2 ログフォルダの内容を表示する”)

メイン画面上部の”File”をクリックして下さい。下記のようにメニューが表示されます。

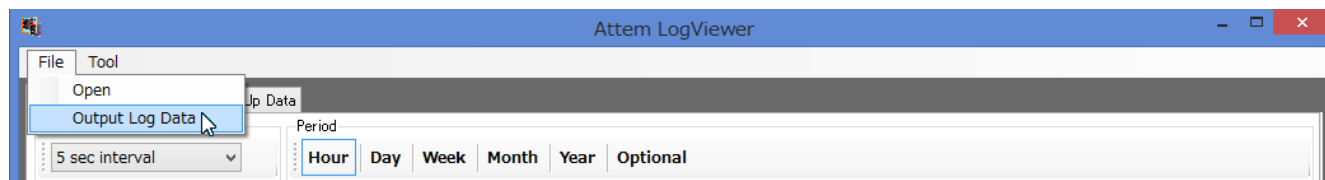


Figure 2-36 ”File”メニュー

メニュー内の”Output Log Data”をクリックして下さい。期間指定画面が表示されます。

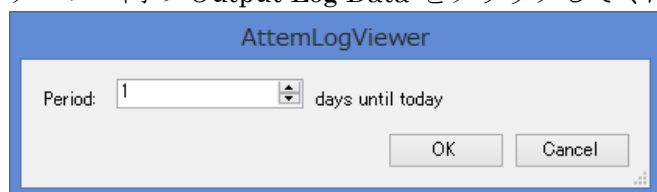


Figure 2-37 期間指定画面

“Period” には、作成するログフォルダに含みたいログの期間を入力して下さい。”OK”をクリックすると、フォルダ選択画面が表示されます。

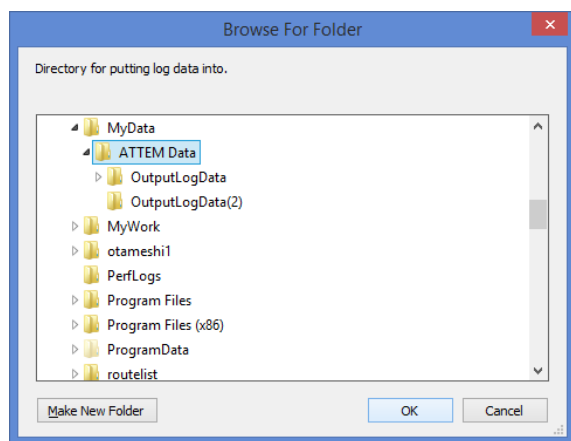


Figure 2-38 フォルダ選択画面

報告用ログフォルダを作成する場所を選択し、”OK”をクリックして下さい。作成が完了すると、下記のようなメッセージが表示されます。

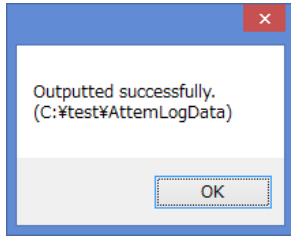


Figure 2-39 報告用ログフォルダ作成完了メッセージ

注意

報告用ログフォルダは必ず ATTEM LogViewer の機能を利用して作成してください。

ATTEM Monitor のログ保管場所に設定されているフォルダを手動でコピーしようとする、ATTEM Monitor の動作を阻害してしまう可能性があります。

2.11. 終了する

メイン画面を”×”ボタンで閉じると、ATTEM LogViewer が終了します。